

## 国際課活動レポート

### ◆駐日デンマーク王国大使来県【2月6日～8日】



スウェーデン駐日デンマーク王国大使が来県され、紀南各地を視察されました。目的の一つは、デンマークフェロー諸島のクラクスヴィーク町と姉妹都市提携を結んだ太地町の訪問です。共通の捕鯨文化や今後の友好関係について三軒町長と意見交換をしたり、捕鯨に関わる場所を訪れたりしました。また、白浜町では、アドベンチャーワールドでパンダの飼育状況を視察しました。ここで飼育されている永明（えいめい）の孫にあたるメスのパンダ“毛二（マオアル）”が、デンマーク・コペンハーゲン動物園に派遣されることとなったためです。スウェーデン大使は、「新たなつながりも生まれ、和歌山は深い絆のある重要なパートナーだ。」と述べました。1957年、日本人を救助しようと海に飛び込み命を落としたクヌッセン機関長の勇敢な行動がきっかけで生まれたデンマークと和歌山の友好関係は、今後もますます深くなっていくでしょう。

### ◆スペインガリシア州青少年代表団派遣【3月3日～12日】

熊野古道を有する和歌山県は、サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼道を有するスペイン・ガリシア州と1998年に姉妹道提携を結んで以来、様々な分野での交流を行っていますが、その一つに青少年交流があります。

和歌山県の青少年15名が1週間、ガリシア州に滞在し、世界遺産であるサンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路散策、大聖堂、旧市街地、ヘラクレスの塔を訪れたほか、巡礼道博物館やZARAの工場見学、州政府表敬、ホームステイなど貴重な体験をすることができました。



### ◆山東省友好提携35周年記念訪問団来県【3月24日・25日】

山東省と友好提携35周年を記念して、山東省龔正（きょうせい）省長を団長とする112名の一行が和歌山県を訪問しました。仁坂知事と記念会談を実施し、35周年を契機に各分野での交流をさらに推進していくことに合意しました。その後、35周年を祝って記念祝賀会が行われた他、翌日には県内事業者向けの山東省ビジネスセミナーも開催されました。



## 文化紹介

◎黄中国語国際交流員による文化紹介です。

### 『青团子（青团：チントゥアン）』

今回中国の“青团子”を紹介したいと思います。蘇州、上海あたりで、毎年、清明節（お彼岸4月5日）前後に食べられます。もち米、ヨモギ、あんこなどで作られ、日本のヨモギ餅と似ていますが、青团子のほうがもっとしっとりして、形は大福に近いです。



私が蘇州にいた時、青团子が大好きで、この時期になると仕事帰りに必ず青团子の店によって買って帰りました。

昔の青团子はいんこがとても甘くて、二個食べたらもう限界、という甘さでしたが、今年、蘇州にいる友達から聞いたところ、甘さ控えめの青团子が出てきたようです。昨今の健康志向ブームで食べ物に気を付ける人が増えているため、ニーズに合わせた商品が出てきたのだと思います。

【餡入り青团子】

また最近、消費者の購買意欲を高めるため、甘さ控えめの青团子だけでなくいろいろな新商品が開発されています。例えば、餡の種類として、中国でとても人気のある、アヒルの卵の塩漬けの卵黄だけを使用した餡、乾燥したお肉をすりおろした肉餡、その二つをミックスした餡、抹茶餡、黒ゴマ餡、花と牛乳をミックスした餡など、たくさんの新商品が販売されています。どれもおいしいと友達から聞きました。10連休に帰国して、全種類を味見したいと思います。



【肉餡青团子】

みなさん、来年この時期に蘇州・上海に行くチャンスがあったら、ぜひ青团子を食べしてみてください。

異文化体験記 ◎和歌山県職員による「異文化体験記」です。

皆さん、はじめまして。和歌山県庁国際課の蒲原と申します。私は去年の9月に中国山東省に赴任しました。今回は、この中国赴任を通じて知ることが出来た現在の中国の情報をいくつか皆さんに紹介したいと思います。

まず、中国ではキャッシュレス決済が一般的になっているという事は日本でも有名ですね。そのキャッシュレス決済は単純な支払いに留まらず更に色々な機能を備えて中国の方の生活に深く根ざしています。例えば、お正月のお年玉がありますよね、このような風習は中国でも存在し、紅包（ホンバオ）と呼ばれています。この紅包も中国では既にキャッシュレス化されています。

どのようなものかという、チャットアプリでグループを作り、そのチャットグループに紅包を投稿します。すると、その投稿をクリックすることでお金を受け取ることが出来ます。

実はこの受け取りは早い者勝ちです。ですから、みんなが我先にとクリックすることになります。これがゲーム感覚で楽しめるので、中国の人はみんな大好きです。

次に、レストランの決済も当然キャッシュレスが可能なのですが、これも更に便利になっています。多くのレストランで、注文から支払いまですべてアプリで行うことが出来るようになっています。レストランに入るとテーブルの上などにQRコードが貼ってあり、これを読み取るとメニューの画面に入ることが出来ます。そこから食べたいものを注文し、決済を行うことで完了します。簡単に出来ますし、店員さんを呼んで、メニューを見て注文して、最後に支払いをするという作業を省略出来るので大変便利です。特にファストフード店などではレジに並ぶ必要がなく、ストレスがたまりません。

また、今中国には凄い勢いで店舗を増やしている“ラッキンコーヒー”というコーヒー専門店があります。このお店では、専用のアプリを使って注文と支払いを事前に行っておきます。すると、お店につく頃にはコーヒーが出来上がっており、すぐに受け取ることが出来ます。キャッシュレス決済という点において中国は日本の何年も先に進んでいると思います。



【高速鉄道】

最後に紹介するのは中国の高速鉄道です。中国は日本と比べると大変広い国家で、私のいる山東省 だけを見ても、およそ 15 万㎢ の面積があります。この広い大陸を迅速に移動するために、中国は高速鉄道を



【ラッキンコーヒー】

急速に発展させており、その営業距離は2万kmを越えました。また、この高速鉄道は日本の鉄道と比べると大変安い価格で乗ることが出来ます。例えば、山東省の省都である済南市から海沿いの有名な都市である青島市まで約350kmありますが、およそ120元（日本円約2000円）で移動できます。羨ましいですね。

ただ、高速鉄道自体はまだまだ大変な赤字のようです。中国は高速鉄道の他、高層ビルも立ち並び、広大な国家にたがわぬ街のスケールにはただ圧倒されるばかりです。この国における積極的な先進技術の導入や街づくりにおける開発速度など良いところを今後の和歌山の街づくりの参考にしていければと思います。

〈蒲原大介(平成30年9月より中国山東省にて研修中)〉